

10/28  
玉麻

# 未成年自殺率 最悪を更新 20年版白書

政府は27日の閣議で、2020年版の自殺対策白書を決定しました。人口10万人当たりの自殺者数を示す自殺率は、19年は全体で16・0と10年連続で低下し、統計を取り始めた1978年以降最も低くなりました。ただ、年代別で20歳未満だけは自殺者数が前年より増え、自殺率も前年比0・33増の3・1で最悪を更新し、若年層の自殺が依然深刻な実態が明らかになりました。

## 40歳以上の最多原因は「健康」

20年版白書は、中高年(40〜64歳)や高齢者(65歳以上)の状況を詳細に分析。原因・動機の最多は健康問題で、経済・生活問題や家庭問題が続きました。年齢層や男女で傾向に変化が生まれました。

20年版白書は、中高年(40〜64歳)や高齢者(65歳以上)の状況を詳細に分析。原因・動機の最多は健康問題で、経済・生活問題や家庭問題が続きました。年齢層や男女で傾向に変化が生まれました。

集計によると、今年7月以降、自殺者数は前年同月に比べ3カ月連続で増えており、同省は新型コロナウイルスの感染拡大による生活環境の変化の影響を調べます。

自殺者数を年代別に分析すると、20歳以上では前年比1・6〜6・8%減でしたが、未成年は同10・0%(60人)増の659人で2000年以降では最多でした。遺書などから推定できた原因・動機を1人につき三つまで計上した結果、延べ618人中、学校問題(202人)が最多で、健康問題(138人)と家庭問題(116人)が続きました。

40〜60代の自殺者数は、10年連続で減りました。中高年の原因・動機は健康問題が最多で、男性は生活苦や多重債務などの経済・生活問題が多く、女性は夫婦関係の不和や家族の死亡といった家庭問題が多いという結果でした。65〜74歳も同様の傾向でしたが、75歳以上では、男女ともに健康問題に続き家庭問題が多数でした。